(31) ショウガ
ア　殺菌剤

	成分名	系統名	FRACコード	適用病害虫名										注意事項
				根茎腐敗病	白星病	紋枯病								
アフェットフロアブル	ﾍﾟﾝﾁｵﾋﾟﾗﾄﾞ	ｱﾐﾄﾞ	7		◎									
インプレッションクリア	ﾊﾞﾁﾙｽ ｱﾐﾛﾘｸｴﾌｧｼｴﾝｽ	生物農薬	BM02		◎									
オーソサイド水和剤８０	ｷｬﾌﾟﾀﾝ	その他	M04	◎	◎									
オラクル顆粒水和剤	ｱﾐｽﾙﾌﾞﾛﾑ	その他	21	◎										
オンリーワンフロアブル	ﾃﾌﾞｺﾅｿﾞｰﾙ	SBI	3		◎									
サンリット水和剤	ｼﾒｺﾅｿﾞｰﾙ	SBI	3		◎									
スコア顆粒水和剤	ｼﾞﾌｪﾉｺﾅｿﾞｰﾙ	SBI	3		◎									
シトラーノフロアブル	有機銅・TPN	混合剤	M01・M05		◎	◎								
ダコニール１０００	TPN	その他	M05		◎	◎								
トップジンＭ水和剤	ﾁｵﾌｧﾈｰﾄﾒﾁﾙ	ﾍﾞﾝｿﾞｲﾐﾀﾞｿﾞｰﾙ	1		◎									
トリフミン水和剤	ﾄﾘﾌﾙﾐｿﾞｰﾙ	SBI	3		◎									
バリダシン液剤５	ﾊﾞﾘﾀﾞﾏｲｼﾝ	抗生物質	U18			◎								
プレビクールＮ液剤	ﾌﾟﾛﾊﾟﾓｶﾙﾌﾞ塩酸塩	その他	28	◎										
ムッシュボルドーＤＦ	塩基性硫酸銅	無機	M01		◎									
モンカットフロアブル４０	ﾌﾙﾄﾗﾆﾙ	ｱﾐﾄﾞ	7			◎								
ユニフォーム粒剤	ｱｿﾞｷｼｽﾄﾛﾋﾞﾝ・ﾒﾀﾗｷｼﾙM	混合剤	11・4	◎										
ランマンフロアブル	ｼｱｿﾞﾌｧﾐﾄﾞ	その他	21	◎										
リドミル粒剤２	ﾒﾀﾗｷｼﾙ	ｱﾐﾄﾞ	4	◎										

(31) ショウガ
イ　殺虫剤

農薬名	成分名	系統名	IRACコード	適用病害虫名										注意事項
				アワノメイガ	イネヨトウ	ハスモンヨトウ	ネコブセンチュウ類							
アクセルフロアブル	ﾒﾀﾌﾙﾐｿﾞﾝ	その他	22B	◎		◎								
オルトラン水和剤	ｱｾﾌｪｰﾄ	有機ﾘﾝ	1B	◎										
ガードホープ液剤	ﾎｽﾁｱｾﾞｰﾄ	殺線虫	1B				◎							
コテツフロアブル	ｸﾛﾙﾌｪﾅﾋﾟﾙ	その他	13			◎								
スカウトフロアブル	ﾄﾗﾛﾒﾄﾘﾝ	ﾋﾟﾚｽﾛｲﾄﾞ	3A	◎										
ゼンターリ顆粒水和剤	BT	生物農薬	11A			野								野:【野菜類登録】
デルフィン顆粒水和剤	BT	生物農薬	11A			野								野:【野菜類登録】
トレボンエアー	ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽ	ﾋﾟﾚｽﾛｲﾄﾞ	3A	◎										無人航空機利用散布
トレボン乳剤	ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽ	ﾋﾟﾚｽﾛｲﾄﾞ	3A			◎								
トルネードエースＤＦ	ｲﾝﾄﾞｷｻｶﾙﾌﾞ	その他	22A	◎		◎								
ノーモルト乳剤	ﾃﾌﾙﾍﾞﾝｽﾞﾛﾝ	IGR	15			◎								
パダンＳＧ水溶剤	ｶﾙﾀｯﾌﾟ	ﾈﾗｲｽﾄｷｼﾝ	14	◎										
フェニックス顆粒水和剤	ﾌﾙﾍﾞﾝｼﾞｱﾐﾄﾞ	ｼﾞｱﾐﾄﾞ	28	◎		◎								
プレバソンフロアブル５	ｸﾛﾗﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ	ｼﾞｱﾐﾄﾞ	28			◎								
マトリックフロアブル	ｸﾛﾏﾌｪﾉｼﾞﾄﾞ	IGR	18			◎								
ラグビーＭＣ粒剤	ｶｽﾞｻﾎｽ	殺線虫	1B				◎							
ロムダンフロアブル	ﾃﾌﾞﾌｪﾉｼﾞﾄﾞ	IGR	18			◎								

(31) ショウガ
ウ　土壌消毒剤

農薬名	成分名	RACコード I:殺虫 F:殺菌	適用病害虫名											注意事項
			コガネムシ類幼虫	ネグサレセンチュウ類	ネコブセンチュウ類	根茎腐敗病								
ガスタード微粒剤 バスアミド微粒剤	ﾀﾞｿﾞﾒｯﾄ	I:8F				◎								
キルパー	ｶｰﾊﾞﾑﾅﾄﾘｳﾑ塩	I:8F			◎	◎								
クロールピクリン	ｸﾛﾙﾋﾟｸﾘﾝ	I:8B				◎								
クロピク80 ドジョウピクリン ドロクロール	ｸﾛﾙﾋﾟｸﾘﾝ	I:8B				◎								
クロピクテープ	ｸﾛﾙﾋﾟｸﾘﾝ	I:8B				◎								
クロルピクリン錠剤	ｸﾛﾙﾋﾟｸﾘﾝ	I:8B				◎								
ソイリーン	ｸﾛﾙﾋﾟｸﾘﾝ・D-D	I:8B・8A		◎	◎	◎								
ダブルストッパー	ｸﾛﾙﾋﾟｸﾘﾝ・D-D	I:8B・8A		◎	◎	◎								
テロン DC油剤 D-D	D-D	I:8A	◎	◎	◎									

エ　病害虫防除法（ショウガ）

（ア）根茎腐敗病　*Pythium ultimum*，*Pythium zingiberum*

（防除のねらい）

種子ショウガからの持ち込みと，ほ場での発病とがある。種子持ち込みの場合は生育初期までに株全体が黄変枯死することが多い。夏季の高温時，降雨が続いた後に排水の悪いほ場ほど多発しやすい。生育中だけでなく，貯蔵中にも腐敗することがある。無病種の確保が最も重要で土壌消毒，ほ場管理を含めた対策が必要である。

（耕種的防除法）

（１）種子ショウガは無病ほ場から選び，植付前に罹病根茎を厳重に取り除く。
（２）排水が良好な無病地に栽培する。多発ほ場での連作は避ける。
（３）発病株は早目に抜き取る。

（イ）白星病　*Phyllosticta zingiberis*

（防除のねらい）

８～９月に発生が多い。耕土が浅く干害を受けやすく，肥料切れ状態のほ場で多発しやすい。乾燥後の降雨で新葉に病斑が急増するので，降雨後の防除が効果的である。

（耕種的防除法）

（１）敷わらをする。
（２）肥料切れをしないように肥培管理する。

（ウ）紋枯病　*Rhizoctonia solani*

（防除のねらい）

種子ショウガ伝染及び土壌伝染する。葉鞘に発生し，多発すると減収及び品質が低下する。植付前の土壌消毒と発病進展期に防除する。

（耕種的防除法）

（１）種子ショウガは無病ほ場から採種する。
（２）多発ほ場での連作を避ける。

（エ）腐敗病　*Erwinia carotovora* subsp.*carotovora*

（防除のねらい）

土壌伝染するほか罹病根茎も伝染源となる。27～30℃の比較的高温で，多湿ほ場で発生が多くなる。初期に発病する場合は種からの持ち込みによることが多く，無病種子の確保が重要である。

（耕種的防除法）

（１）種子用根茎は無病ほ場から採種し，植付前には罹病したものを取り除く。
（２）排水の良いほ場に栽培し，周辺ほ場からの雨水，土砂の流入を防ぐ。
（３）発病株は早目に抜き取る。

（オ）アワノメイガ

（防除のねらい）

８月以降の幼虫による被害が主で，10～11月は次種と混発する。ふ化幼虫は上位葉の葉鞘部から茎内に食入する。防除はふ化食入期をねらうが，第１回成虫の発生時期は長く，適期がつかみにくいので被害が目立ち始めたら散布間隔を短くする。

（カ）イネヨトウ

（防除のねらい）

６～７月以降の第１～第２次茎に食入するのはイネヨトウが主で，10～11月は前種と混発して加害する。

（キ）ハスモンヨトウ

（防除のねらい）

ふ化幼虫やふ化幼虫による食害痕の早期発見に努め，若齢幼虫を対象とした防除を行う。

（ク）ネコブセンチュウ

（防除のねらい）

サツマイモのセンチュウ類の項参照